

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1473600706
法人名	有限会社 松田メディカルサービス
事業所名	グループホームしんばしの家
訪問調査日	平成20年10月28日
評価確定日	平成20年12月18日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

平成20年12月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473600706		
法人名	有限会社 松田メディカルサービス		
事業所名	グループホームしんばしの家		
所在地 (電話番号)	横浜市泉区新橋町1515-2 (電話) 045-811-7800		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年12月18日

## 【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 5 人、非常勤 6 人、常勤換算 6.5 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	-----------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	41,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 不要 円
または1日当たり 1,050円			

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 56 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南泉病院、岡津クリニック、高津内科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは相鉄いずみ野線緑園都市駅から徒歩10分ほどの大通りから少し入った閑静な住宅街にある。建物は木造の2階建てで、1階および2階の居間にはそれぞれ8畳の和室が併設され、明るく開放的な間取りとなっている。  
ホームの「利用者が求める生活に基づいた援助と環境づくり」および「利用者を支えるための地域づくり、社会づくりに必要な情報や提案の発信」という基本理念に基づき、自治会活動や地域の様々な行事に参加するなど、地域との積極的な交流やコミュニケーションの推進に努めている。協力医療機関および訪問看護ステーションと医療連携体制を構築しており、入居者の日常的な健康管理や状態変化に対する主治医および協力医療機関との連絡調整を図っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価で主な改善課題は無かった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価、外部評価については、年間事業計画の中にそれぞれ勉強会、作成、課題の解決といった一連の流れを組み込んで管理者と職員が一緒に取り組んでいる。今回の自己評価は主担当の職員3人が作成したものを管理者と職員全員で検討を加えた上、取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	運営推進会議は3ヶ月に1回開催している。平成20年10月に開催した運営推進会議のテーマはホームの活動状況、看取り介護、行事、家族会および自己評価・外部評価に関するものなどで、参加者は区役所職員1名、地域包括支援センター職員2名、地域代表2名、利用者代表1名、家族代表1名、職員2名である。 会議の席上、家族から家族の菓子類の持ち込みについてのマニュアルの策定に関する要望が出され、その対処方法が検討された。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	利用者の健康状態や暮らしぶりは家族の来所時に伝えるほか、月1回、手紙と写真による報告を行っている。緊急時には電話連絡している。利用者や家族の意見は家族会、運営推進会議で取り上げ、その内容は全職員へ周知している。意見箱を設置しているが、職員に直接言いにくい苦情、意見は封印して入れ、それを退所した方の家族の方に見てもらい、その方の意見や考えをホームに助言してもらうことにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	ホームでは「地域を知る、地域に発信する、地域に知ってもらう」を理念に掲げ、自治会活動や地域の様々な行事に参加するなどして交流の推進に努めている。例えば、新橋上自治会や自治会内の敬老会への加入、地域の防災訓練や盆踊り大会への参加、小学校の夏祭りの見物、新橋地区社会福祉協議会主催の講演会への講師派遣など地域との積極的な交流を行っている。行政の要請により、ホームが「こども110番の家」に指定されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームは「利用者が求める生活に基づいた援助、環境づくりおよび利用者を支えるための地域づくりに必要な情報や提案の発信」という基本理念に基づき、ホームと地域との積極的な交流、コミュニケーションの推進に努めている。理念は玄関や1階と2階の各事務室の入り口の壁面に掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については管理者と職員が会議やミーティングで共有の徹底を図っている。事業計画や介護計画などを作成する場合でも、具体策が基本理念に照らして、かなっているかどうかを検討している。職員の言葉遣いなどに問題があった時は、それを事例として取り上げ、職員全員に周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新橋上自治会や自治会内の敬老会に加入している。自治会の盆踊り大会、新橋社会福祉協議会主催のバザー、小学校の夏祭りなどに参加して、地域との交流を図っている。ホームでのボランティアによる舞踊、フラダンスなどを6ヶ月に1回、開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価については、年間事業計画の中に勉強会、自己評価の作成、課題の改善といった一連の流れを組み込んで、管理者、職員が一緒に取り組んでいる。自己評価の作成に当たっては、職員一人ひとりが課題を見付け、それらを会議で検討の上、自己評価に反映させている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催している。平成20年10月開催の運営推進会議の参加者は地域包括支援センター職員、泉区役所職員、地域代表、利用者代表、家族代表、職員であった。テーマはホームの活動状況、家族会、自己評価などである。菓子類の持ち込みに関するマニュアル策定の要望があり、是非を検討した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所職員とは年2回開催される泉区グループホーム連絡会や地域包括支援センター主催の勉強会などで、交流を図っている。書類の申請などで区役所に出掛けるときは、職員と空き室状況などの情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時に利用者の状況を伝えているほか、月1回、手紙に写真を添えて利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に報告している。緊急の場合は電話により報告している。金銭管理については金銭出納帳により、毎月家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、苦情は家族会や運営推進会議で取り上げ、その内容は会議で職員全員に周知し、共有を図っている。職員に直接言いにくい意見、苦情は封印して意見箱に入れ、ホームが依頼した退所した方の家族の方に見てもらって、その方の意見や考え方をホームに助言してもらっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年、職員の異動や退職はない。退職などの申し出はなるべく早めに行ってもらい、前担当者と新しい担当者が重複して勤務する期間を十分取るようにしている。職員の処遇に関しては職員と相談し、要望を考慮したシフトや役割分担の変更などを行い、なるべく離職を抑える工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき内部研修、外部研修を実施している。外部研修の受講者は受講費用、交通費を法人負担とし、研修当日は勤務扱いにしている。職員が休日に受講した場合には賃金を保証している。日常のケア活動の中で指導しているが、指導事例は記録に残し、それらを全職員に周知し、共有化を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉区グループホーム連絡会や地域包括支援センター主催の勉強会などに参加し、同業者の職員と情報交換、コミュニケーションの促進を図っている。法人内のグループホーム同士で医療連携に関する事例研修や、年1回のグループホーム連絡会での研修発表会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者については自宅や病院などの施設で事前面談を行い、入居判定会議で是非を決定している。体験入居は、泊まりは行っていないが通いで体験入居を行っており、本人の状況を見ながら滞在時間を延ばすなどして、雰囲気になれるようにしている。ホームの利用者は法人代表がケアマネジャーとして関わりをもっていた方が多いので、馴染みやすい関係にある。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、調理方法、新鮮な野菜の選び方、洗濯物のたたみ方、雑巾の作り方など利用者から教わることが多い。利用者は職員の忙しいような働き振りをみると、自ら申し出て、掃除や食器洗いを手伝ってくれるなど利用者と職員が支え合う関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意向は家族の話やアセスメントの記録、利用者の表情や言動から把握している。また、アクティビティを行っているときの興味・関心の度合いや声かけなどにより利用者の意向を把握するなどの工夫をしている。</p> <p>重度の利用者には繰り返し声かけして、表情や顔色などの動作から意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は主担当の職員3人が作成した介護計画案を職員全員で検討の上、決定している。作成に際しては本人、家族、主治医の意見を聞き、それぞれの意見、要望を計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成は基本的には6ヶ月に1回であるが、3ヶ月ごとに定期的な評価を行い、必要場合は見直しをしている。利用者の状態の変化、家族の要望があった時は随時見直しを行い、その結果は家族に報告している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは協力医療機関と医療連携体制を構築している。訪問看護ステーションの看護師が配属され、日常の健康管理に当たっている。医師の指示により週1回拘縮の訪問マッサージを受けている利用者がいる。理美容については外部の美容院を利用する人、訪問美容を利用する人それぞれの要望に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の利用者は1名であるが、職員が同行の上、受診し、医療内容は家族に連絡している。協力医療機関の内科医が2週に1回、神経内科医が1ヶ月に1回、歯科医師が1週に1回往診に来てくれる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては当ホームの「看取りに関する指針」に基づき対応している。看取りが必要となった場合は家族、主治医、看護師、職員で話し合い、ホームでの対応が可能かどうかを検討の上、決定している。家族とは同意書を取り交わしている。職員に対して看護師による看取り介護に関する研修を行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報は事務室の書庫に保管している。個人情報の取り扱いについては、入職時や定期的研修会で職員に周知徹底している。職員は入職に際して「誓約書」を提出している。普段の言葉遣いへの配慮や、入浴は個浴で介助者を固定するなど、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	献立の希望を聞いた上で、その食材を買い物に出掛けたときに利用者を選んでもらったり、散歩に出掛けて遅れたときには食事開始の時間を遅らせるなど利用者の希望や気持ちを尊重した援助をしている。スイミングプールに水泳に行く人もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者に話しかけながら一緒に食事を楽しんでいる。メニューには利用者の好みのもや旬の野菜、魚などを取り入れている。ホームの前庭の菜園で利用者が作った野菜を食材として使うこともある。利用者は食後の後片付けや食器洗いなどを職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午前10時から午後5時までとなっており、毎日入浴が可能である。入浴は個浴であり、本人の希望の時間に入浴している。入浴中、職員と一緒に体操や洗髪などをしながら、コミュニケーションを図る工夫をしている。入浴したくない利用者には時間を置いてから再度声かけして誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には本人の希望を踏まえて、買い物、掃除、洗濯物のたたみなどを行っている。 利用者の希望で、水族館、動物園、絵画鑑賞、喫茶店、フラワーセンターに出掛けるなど気晴らしの支援を行っている。野菜作りの好きな利用者は前庭で菜園作りを楽しんでおり、それを食材に使っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて近くの公園への散歩や買い物に出掛けている。買い物は1階の比較的軽度の方はほぼ毎日、2階の重度の方は3日に1回程度行っている。ボランティアの方の飼い犬と一緒に散歩に出掛けたり、散歩の途中で近隣住民が挨拶や声かけしてくれるなど、近隣住民とのコミュニケーションを図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中には施錠していないが、夜間には鍵をかけている。落ち着かない利用者には見守りや職員の連携により対応している。居室のドアには鍵がついているが、いつでも外側から開錠できる仕組みになっている。エレベーターを使用するときは職員が同伴している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。平成20年9月に消防署の指導の下、避難訓練、消火器の扱い方の訓練を実施した。参加者は消防署員、職員、利用者である。自治会の災害訓練のときは職員が炊き出しに参加した。火災警報装置等の設備点検は外部委託で年2回実施している。非常用食料、飲料水の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量は「水分・排泄チェック表」に記録し把握している。栄養状態の把握は血液検査を行い、その結果を主治医に見てもらっており、主治医の指示により栄養補助食品を使う場合もある。大まかな栄養摂取総量は把握しており、専門的なチェックについては区役所の保健師に相談中である。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下の壁面には柿や紅葉などをデザインした飾りが取り付けられ、居間の窓からは小高い丘に茂る竹林や樹木が眺望でき季節が感じられる。居間に隣接した8畳の和室には仕切りがないため、明るく開放的な雰囲気を感じられる間取りとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇、鏡台、整理だんすや人形、ぬいぐるみなど馴染みのものを持ち込み、壁面には家族からの絵手紙や家族写真などが掲げられ、家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせるような工夫がされている。入居時の不安やストレスを最小にするために、家族と相談の上、使い慣れたものを徐々に持ち込むようにしている。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	しんばしの家
(ユニット名)	木の実
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	中西敦子
記入日	平成 20年 9月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者を支えるための地域づくり、社会づくりに必要な情報や提案の発信をしていきます」という理念を掲げている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会を行っている。管理者は理念を意識しながら、日々の実践(利用者へのケアプラン作りや入居者との関わりをとoshした人材育成など)に活かすように心がけている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議などで理念に即した取り組みについて報告している。また、機関誌をとoshして具体的に伝えていくように常に考えている。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣スタッフが地域の方との交流を支援してくれている。また、運営推進会議をとoshして輪が広がり、野菜などのおすそわけの交流がある。また、できる限り、回覧板も入居者と一緒に届けるようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地域のお祭りや敬老会など、自治会の行事には積極的に参加している。また、地域の民生委員の会議にも参加させていただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで、事業所での成果を地域に伝えている		地域のニーズを理解した上で、私達に出来る事を積極的に行っていききたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には口頭や文書にて伝えた。前回の外部評価でアドバイスいただいた事を踏まえて、年間計画や介護計画書などに反映させている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域がもつ力や役割について理解できて、とても有意義な時間をいただいている。また、より一層、行事や会議などにも参加することが出来ている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の事業者の会合や講演会などに参加するようにし、区役所などにもこまめに足を運んで情報を得ている。空室情報も行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所内での勉強会で、管理者が参加した講演会などでの情報を伝えた。事業所内でもご家族に話をすすめている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会で、管理者の知り得る範囲で説明した		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書を一緒に読み、確認し、その都度、質問を受けて理解していただけるよう心がけている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口の掲示をホーム内にしたり、利用者との会話、また利用者が家族へ話した内容などを受け止めるように心がけている。運営推進会議も活用している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族来訪時や月1回、郵送にて利用者の暮らしぶりや健康状態をお伝えしている。また金銭出納帳を月1回送付し、確認していただいている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の実施や匿名式の意見箱の設置を行っている。また、苦情があった時には確実に最後まで対応し、記録に残し職員間で共有している</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の活動、交流から職員の考えなどを聞くようにしている。また、大事な取り決めなど(職員のマニュアルや介護計画など)についても職員に確認しながら行うように心がけている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中は3名の職員体制とし、出勤している職員と話し合いながら、柔軟に対応している</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職は今のところほとんどない。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりの役割や段階に応じて、研修への参加を促している。外部研修のための勤務調整についても理解がある。研修に参加した者が事業所内の勉強会で発表する機会をつくっている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会、市の連絡会に加入し、交流や研修を行っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、小まめにホームを訪れ、管理者や職員の話を書くようにしている。休憩時間のとり方など、職員の意見を取り入れてもらっている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、小まめにホームを訪れ、管理者や職員の勤務状況を把握し、運営者にしか出来ない言葉かけをしてきている		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や相談時、出来るだけ、ご本人の不安や希望を聞き取るよう努め、ご家族の不安や希望にあわせた出来る範囲でのアドバイスを行っている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や相談時、出来るだけ、ご本人の不安や希望を聞き取るよう努め、ご家族の不安や希望にあわせた出来る範囲でのアドバイスを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や必要としている支援を見極めた上で、場合によっては他のホームを紹介したり、ケアマネージャーに繋げるなどの対応を行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況に応じて、グループホームの滞在を徐々に増やしながら、完全入居に移行していく取り組みなどを行っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、学び、支えあう場面がある。また、介護計画をとおしてそのような場面を意図的に作りだすよう心がけている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に相談する機会も多く、アドバイスやご協力をいただきながら支援している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族だから出来る事を家族会や機関誌などとおして理解していただくように心がけている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会をとおして情報の提供をお願いしたり、一緒に支援していきましょうという事を伝えている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を把握すると共に介入が必要な場面では、さりげなく行うよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族会への参加を呼びかけて退去してもご家族との交流がもてる環境づくりや機会をつくるように心がけている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話などで得た情報は、個人記録やアセスメント表に書きいれ職員間で共有し、介護計画に反映するようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時にうかがうほか、プロフィール表を入居前に渡し、ご家族に記入していただくなどして把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	小さな会話や行動も記録に残し、背景を知り、職員間で共有するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の会話や行動から利用者ご本人が望むこと、望まないことを見極め、ご家族に確認しながら介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行うとともに急激な変化が起きた場合には、利用者、ご家族、医師や看護師などにアドバイスを頂きながら介護計画の変更を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動 ケアの実践 結果を個別記録に記入し、介護計画に反映させるよう心がけている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアマネジャーと情報交換を行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向を職員とご家族で実現している事が多い現状である		もっと活動の場を意識的に広げていきたいと思う
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	送迎サービスやマッサージなどを利用している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域の民生委員や施設で構成されている会議に参加し、情報交換を行っている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連絡がとれる体制を整え、急変時にも対応できるように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の往診があり、相談できる関係性が築けている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に看護師と相談しながら、疾患などの早期発見や健康管理に努めている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院しても早い時期から協力病院や往診医と連携をとりながら、早期退院にむけての体制を整えている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化に応じて、かかりつけ医やご家族と相談しながら今後についての方針を決めている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態の変化に応じて職員と相談しながら、勤務体制や手順を柔軟に変え、対応している		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人やご家族に了解を得た上で介護計画や個別記録の情報提供を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には常に、自分の親だったら？自分だったらどう思うか？どのような言葉かけをしてほしいかということ問いかけながら指導している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	小さい事でも、利用者の興味のあるもの、こだわりのあるものに関しては選択出来る(選択した事によるリスクも説明した上で)ようにしている	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の重度化に伴い、職員の支援できる事が限られてきてしまっているが、そんな中でもできる範囲で、ご本人の立場に近づいた日常生活の支援を心がけている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者が自分で出来る範囲で、衣類の選択などを行えるように支援している	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や負担、利用者同士の関係性に配慮しながら支援している	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の健康状態や他の利用者への影響を考慮しながら支援している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「トイレでの排泄」を基本に介護計画を作成している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる環境と体制を整えている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方からの影響なども考えて支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の重度化に伴い、職員の支援できる事が限られてきてしまっているが、そんな中でもできる範囲で、ご本人の立場に近づいた楽しみごとや気晴らしの支援を心がけている		ボランティアや他のサービスなどの視野に入れてもっと幅の広い支援をしていきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や他の利用者への影響を考慮しながら支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子でも、なるべく散歩や買物、喫茶店に行ける体制を整えている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	身近な所での要望には答えるようにしている		行きたい所へ行けるように一緒に支援していく事の必要性をご家族にも家族会などをとおして理解していただき協力を仰ぎたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手先への影響も考慮しながら支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間や場所など制限することなく、自由に訪問できる環境を整えている。他の利用者とも関係性ができている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束する以外の方法は何か」を常に考え、職員と話し合いながら実践している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者を常に意識し、確認するように職員同士が声をかけ合っている。また夜間は巡回を小まめに行い、記録に残している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	「生活の場である」という事を基本に利用者の状況に応じて対応している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	地域で行われる防災に関する講習会への参加、また、事故報告書を確実に提出する取り決めを行い、今後の対策を職員同士で話し合い、事故を未然に防ぐための環境づくりと手順を整えるよう努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人全体で救急に関する研修を消防署などに協力を仰ぎながら行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力により初期消火と避難訓練を行っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護計画に沿ってご家族や医師や看護師とともに話し合いを行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、週に一度の体重測定などを基本に、変化に応じて往診医と相談しながら早めの対応をしている。必要に応じて血液検査を行い、疾病の早期発見と予防を行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の確認がいつでも出来るように個別記録にファイルし、把握している。また、その時々利用者の健康状態に合わせて往診医と相談しながら対応している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常生活の中で便秘にならない支援を心がけている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアで口腔状態を確認し、必要に応じて看護師にアドバイスをもらったり、往診歯科を利用している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がご自身で摂りにくい利用者は、職員が把握できる体制や手順、介護計画を作成し、咀嚼や嚥下状態を確認した上で、食事や水分の形態を変えている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある 季節や発生状況に合わせて早めに対応している 横浜市からの情報を職員全員で共有している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後に行う衛生管理と夜間に行う衛生管理についての取り決めがある		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわり、建物周囲の清掃、清潔、安全に配慮し、緑豊かな環境づくりに配慮している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者への影響を考えながら工夫している 音や光(明かり)に関してはテレビの音量やカーテン、間接照明の調整などに配慮している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適度な死角もあり「静と動」を意識した環境づくりをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や使用者の希望や嗜好を取り入れるようにしている (使い慣れた物がある事による影響(障害)も考えながら) 仏壇、寝具、家具など		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に意識しながら業務するように職員間での取り決めがある		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関と廊下、和室とリビング、廊下とトイレ、着脱場と入浴場など、特に事故がおきやすい場所は段差がなく、移動しやすい空間となっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「生活空間」という意識をもちながら違和感のない目印や表示などの環境づくりに配慮している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の草花を楽しめる環境を心がけている		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当法人が今年5月に訪問看護ステーションを開設し、今まで以上に医療面の充実が図れている。利用者自身やご家族が「ここでずっと暮らしたい!」のご希望に応えることができるよう、このホームで体に不都合なく、見慣れた顔ぶれと環境の中で生活していただけるような、支援、援助、介護と環境を整えることができるように法人全体で取り組んでいる。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム しんばしの家
(ユニット名)	木の花
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区新橋町
記入者名 (管理者)	玉造 悦子
記入日	平成 19年 10月 23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者を支えるための地域づくり、社会づくりに必要な情報や提案の発信をしていきます」という理念を掲げている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者より勉強会で理念について伝えられている。理念に基づいた援助が行えるよう、また援助に迷ったときは理念に戻り再度検討するよう心掛けている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域運営推進会議などで取り組みについて報告している。また、機関紙をとおして具体的に伝えていくように考えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣スタッフが地域の方との交流を支援してくれている。また運営推進会議をとおして輪が広がり、散歩中のご挨拶やおすそ分けなどの交流が出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地域の防災訓練や自治会のイベントなど行事には積極的に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議などで、事業所での成果を地域に伝えている。</p>		<p>地域のニーズを理解したうえで、私たちに出来る事を積極的に行っていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者より勉強会で外部評価の意義や指導いただいた点について説明があった。また各自評価を確認してもらうことで、良質なケアとはなにか意識を統一することができた。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での情報からイベントや会議に参加することが出来ている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域の事業者の会議に参加するようにし、区役所などにも小まめに足を運んで情報を得ている。空室情報も行っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者より勉強会で説明があり、各自資料でも確認している。ご家族からの問い合わせにも対応している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者より勉強会で説明があり、各自資料でも確認している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書を一緒に読み、確認し、その都度、質問などを受けて理解していただけるように心がけている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者との会話、また利用者が家族へ話した内容などは記録し受け止めるよう心掛けている。運営推進会議にも活用している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族来訪時、または来訪が少ないご家族には電話や郵便にて利用者の暮らしぶり(写真)や健康状態をお伝えしている。また金銭出納帳は送付し確認していただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>匿名式の意見箱の設置や、家族会、運営推進会議の場を設けている。苦情があったときには全職員が共有できるように記録・報告している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>勉強会で意見交換が行われている。また日々の活動や、交流から随時意見しやすい関係が築かれている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況を最優先とし、職員と話し合いながら勤務調整を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者へのダメージを防ぐよう、スタッフの要望も聞き取り離職を抑える努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員育成の年間計画がたてられている。職員の役割や段階に応じて、研修への参加を促している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会、市の連絡会に加入し、交流を図っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は日々の交流から職員の要望を聞き取り、意見を取り入れてくれている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員の勤務状況を把握し、各自向上心が上がるよう評価してくれている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や相談時から、出来るだけご本人の不安や希望を聞き取るよう努め、ご家族の不安や希望も併せたうえで受け止めるよう心掛けている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や相談時から、出来るだけご家族の不安や希望を聞き取るよう努め、ご本人の不安や希望も併せたうえで、受け止めるよう心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が希望・必要としている支援を見極めたうえで、他のサービスも含めアドバイスを行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気を感じていただけるよう、出来るだけご本人の見学をお勧めしている。利用者の状況・希望に応じてグループホームの滞在を徐々に増やしなが、完全入居に以降していく取り組みなどを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活をする事で、職員と利用者が支え合える関係が出来ている。またそのような場面を意図的に作り出すよう心掛けている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からアドバイスや協力をいただき一緒にケアを行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の希望や負担に配慮した関係作りを心掛けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会に制限は設けておらず、気軽に家族、親戚、知人の方が来訪していただけるよう、お伝えしている。		訪問については、ご家族と相談、協力を仰ぎながら出来る範囲で支援していきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合えるような場面を意図的に作り出したり、トラブルが予測される事については介入しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者や家族の意向に合わせて行っている(ケアマネジャーの紹介など)		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望は介護計画へ反映させ、日々のケアに活かすよう心掛けている。困難な場合については、なぜ出来ないのかご本人やご家族にご理解いただけるようお話している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談での聞き取りや、ご家族に生活歴を記入していただくなど把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子や変化は、個人記録へ記入し職員共有している。現状の把握と変化に合わせた対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望を第一に、ご家族の希望や職員の意見も取り入れ、一人ひとりの状態に合った介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他、早急に取り組まなければならない変化に対しては新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は個人記録に記入し、利用者の状態に合わせた援助が行えるよう職員で共有している。本人の言動 ケアの実践 結果 を介護計画へ反映するように心掛けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアマネージャーと情報交換を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	舞踊、音楽、犬、外出など、ボランティアの協力が得られている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力病院以外の病院への送迎サービスを利用している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議をとおしてつながりが出来、地域の会議に参加し情報交換を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連絡がとれる体制を整え、急変時にも対応できるように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の往診があり、連絡や相談を受けてもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に看護師と相談しながら、疾患などの早期発見や、健康管理の維持に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族と病院との面談に立ち合わせていただくなど情報交換を行い、早期退院に向けての体制を整えている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化に応じて、かかりつけ医や家族と相談しながら、今後についての方針を定めている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態の変化に応じて医師、看護師、職員と相談しながら、勤務体制や手順を柔軟に変更し対応している		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族の了解を得て、介護サマリーなどの情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーやプライドに配慮した声掛けや対応を行うよう繰り返し徹底している。個人情報 は所定の場所で保管している。</p>	<p>自分だったらどう思うかを問いかけなが指導している。各スタッフが理解し意識出来るよう、繰り返し徹底していく必要がある。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が理解出来る話し方や伝え方で、自己決定してもらえるよう心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の重度化に伴い、職員が出来る事が限られてきているが、出来る範囲でその方らしい生活が出来るよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ヘアスタイル、衣類など、出来るだけ利用者が決定出来るよう支援している。また、その人の好みやこだわりを知り再現できるように努めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの得意分野や力、希望、周囲との関係、負担を見極め、準備から片付けを行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者の希望や健康状態(制限)、他の利用者への影響を考慮しながら支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	不安や羞恥心に配慮し、排泄パターンや習慣など、一人ひとりにあった排泄を支援している。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	毎日入浴が出来、湯加減や入浴したい時間、誰と一緒に入りたいなどの希望を取り入れるよう支援している。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	体力や体調、夜間の睡眠などに考慮しながら、共有スペースや居室など安心出来る場所で休息していただけるよう心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	以前の趣味に囚われず、利用者の持っている力や今楽しめることを見極め、安心して活動出来るよう心掛けている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人と家族の希望に応じ、本人管理のお金を所持している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	利用者の重度化に伴い、外出できる範囲が狭くなっているが、利用者の希望、体力、体調などを考慮し、ボランティアの協力を得ながら外出出来るよう支援している。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している</p>	ボランティアの協力により、ドライブや地域のイベントなど外出できている。ご家族の協力もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には本人の希望に合わせた支援をしているが、相手先の影響や負担にも配慮している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問に制限がなく、いつでも訪問可能なことをお伝えしている。来訪者や利用者に配慮しつつ、居室や共有スペースを使用いただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行った。拘束する以外の方法は何かを考え、職員と話し合いながら実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は見守りや声掛けを工夫し鍵をかけないケアを実践している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い利用者の様子を確認している。夜間は定時に巡回を行っている。(巡回を希望していない方については、プライバシーに配慮し、姿や物音で確認をしている)		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全性を確保しながら、生活感のある環境作りを、利用者の状態に合わせ支援している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防げるよう、また実践で活かせるよう、研修の参加を促している。事故が起きたときには事故報告書を提出し、事故対策を考えている。		

項 目		( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急に関する研修の参加や、消防署などに協力を仰ぎながら行っている。	
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力により初期消火と避難訓練を行っている	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者のその時々々の状況やリスクをご家族にお伝えし、ホームで出来ることとご家族の希望を合わせ対応策を打ち出している。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、週に一度の体重測定などを基本に、変化に応じて、往診医と相談しながら早めの対応をしている。必要に応じて血液検査を行い、疾病の早期発見と予防を行っている。	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも確認出来るよう個人記録にファイルしている。変化がみられたときには個人記録へ記入し、その時々々の健康状態から看護師や医師へ相談している。	
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な方に対しては排便チェックを行い、便秘に効く飲食物を取り入れるなど工夫している。	
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ブラシ、スポンジ、洗口剤など、本人に合わせたものを使い個別に支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ食事の形状を変え、必要な方については1日の水分チェックを行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。 季節や発生状況に合わせて早めに対応している。 横浜市からの情報を職員全員で共有している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者は調理用具の消毒や冷蔵庫内の清掃を行っている。 また季節によって、食材を使用禁止にするなどの取り決めがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには草木が植えられ、玄関にはご近所の方からいただいた写真を飾るなど、家庭的な雰囲気になっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況にも合わせ、特に音や声のトーンに注意している。季節の花や置物で季節感を取り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う方同士過ごされたり、廊下の奥に設置されているベンチは静かに過ごされたい方が利用するなど、それぞれに過ごせる場所が用意されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に使い慣れた物、馴染みのある物を用意していただくようお願いしているが、事情により新しいものを購入されたり、少しずつ搬入される場合もある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃時の換気や、不快なおいがこもらないよう随時空気の入れ換えを行っている。また居室のエアコンで個別に温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を極力なくし移動しやすい空間となっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	違和感のない目印や表示、また夜間は電気の明るさで誘導するなど工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには草花や実りのある植木が植えられている。またベランダに花を置く方や、畑での収穫を楽しまれる利用者もいる。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当法人が今年5月に訪問看護ステーションを開設し、今まで以上に医療面の充実が図れている。利用者自身やご家族が「ここでずっと暮らしたい！」のご希望に応えることができるよう、このホームで体に不都合なく、見慣れた顔ぶれと環境の中で生活していただけるような、支援、援助、介護と環境を整えることができるように法人全体で取り組んでいる。